

「対日理解促進交流プログラム JENESYS2024 Phase II」

招聘

テーマ：防災、環境・エネルギー

1. プログラム概要

「対日理解促進交流プログラム JENESYS2024 Phase II」の一環として、1月29日から2月4日まで、台湾の大学生13名が「防災、環境・エネルギー」をテーマとし、茨城県・東京都を訪問しました。茨城県では JENESYS 台湾では初の試みとして、訪日団の大学生13名と3月に台湾を訪れる大学生を中心とした訪台団10名との合同合宿を実施しました。合宿では「防災」「環境・エネルギー」のテーマ別でプレゼンやグループワークを行い、一緒にスポーツ等を行って親交を深めました。

【開催概要】

実施日：2026年1月29日（木）～2月4日（水）

参加者：大学生・大学院生13名／団長1名・スタッフ1名 15名

訪問箇所：

公益財団法人日本台湾交流協会東京本部／株式会社NTTデータ／東京大学防災情報研究センター／東京消防庁池袋防災館／国立研究開発法人防災科学技術研究所／AIST地質調査総合センター／日本気象協会／外務省

2. 日程

日程	内容
1/29（木）	入国 オリエンテーション 【表敬訪問】公益財団法人日本台湾交流協会東京本部
1/30（金）	【企業訪問】株式会社NTTデータ 【学校交流】東京大学防災情報センター
1/31（土）	【訪問】東京消防庁池袋防災館 【合宿】日台合宿
2/1（日）	【合宿】日台合宿 【訪問】筑波山ロープウェー
2/2（月）	【訪問】国立研究開発法人 防災科学技術研究所 【訪問】地質調査総合センター、AIST Cube
2/3（火）	【企業訪問】一般財団法人日本気象協会 【表敬訪問】外務省

3. プログラム記録写真



1月29日【表敬訪問】
日本台湾交流協会東京本部



1月30日【企業訪問】
NTT データ



1月30日【学校交流】
東京大学防災情報研究センター



1月30日【学校交流】
東京大学防災情報研究センター



1月31日【訪問】
東京消防庁池袋防災館



1月31日【日台合宿】
日本文化紹介

	
<p>1月31日【日台合宿】 スポーツ交流</p>	<p>2月1日【日台合宿】 プレゼン・ワークショップ</p>

	
<p>2月3日【成果報告会】 日本台湾交流協会東京本部</p>	<p>2月3日【表敬訪問】 外務省</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆学生

私は、今回の参访行程はとても素晴らしく、日本を理解するもうひとつの視点を提供してくれたと感じています。私は命に関わる職場から再び学校へ戻った経験があり、日本の方々が「安全」に対してどのような姿勢で向き合い、実行しているのかを特に重視しています。防災とは、本来、災害に対して適切な措置を講じ、人々の安全を守ることですが、日本ではさまざまな自然災害を非常に詳細に分析し、研究環境の整備、災害時の影響範囲や程度のシミュレーションなどに多くの資源が投入されています。また、民間の一部機関が政府と協力し、災害情報を一般の人でも理解しやすい形に整理し、住民や特定業種の事業者に発信しています。これにより、災害が「まもなく」訪れることを知った人々は、事前にどのような防護措置を取るべきか判断できます。しかし、それ以上に私が驚いたのは、日本の一般市民の協力姿勢です。災害は自然がもたらすものであり、自然そのものは非常に不安定な

システムです。情報の伝達過程で誤差が生じるのは避けられず、深刻に予報されても実際には大したことがないケースもあれば、逆もあります。それでも日本人の多くは専門家を尊重する姿勢を持っており、この点は台湾の国民全体がもっと努力すべきところだと感じています。私たちは「日本はすごい」と知っていますが、どこが優れているのかを理解するだけでなく、その良い点を学び、台湾に適した方法を検討して実践してこそ、本当の進歩につながるのだと思います。

◆学生

日本を訪れ、「防災レジリエンス」と「持続可能なエネルギー」をテーマに交流と視察を行う貴重な機会を得た。台湾と日本はともに地震や自然災害が多い地域に位置しており、日本の防災準備や災害後の復旧に関する取り組みは、以前から参考にすべき重要なモデルとして認識されてきた。今回直接その現場を訪れたことで、日本がどのようにして高い防災力を築き上げてきたのかを、より深く理解することができた。特に印象に残ったのは、日本が「防災」を単なる対策ではなく、社会全体の文化として定着させている点である。ハード面では耐震構造や津波対策設備などが計画的に整備されており、ソフト面では防災教育や早期警戒システムがきめ細かく運用されている。これらは、災害発生時だけでなく、日常生活の中に自然と溶け込んでいる印象を受けた。また、日本の防災の中心にあるのは「レジリエンス」という考え方であり、災害によるダメージからいかに迅速に社会機能を立て直すかが重視されている。これは台湾でもより深く取り入れるべき視点だと強く感じた。さらに、今回の視察を通じ、防災と持続可能なエネルギーの関係が非常に密接であることを改めて認識した。極端気象や複合災害が増加する中、エネルギー供給を安定的に維持できるかどうかは、社会のレジリエンスを高めるうえで欠かせない要素である。日本は再生可能エネルギーの導入や分散型エネルギーシステムの整備を進めており、非常時の自立運転が可能な設備も広がりつつある。これらの取り組みは環境対策だけでなく、災害時の自給能力向上にも直結しており、非常に理にかなっている。今回の経験を振り返ると、日本の防災技術やエネルギー政策に触れたことで、台湾が今後どのように発展すべきかを考えるうえで多くの示唆を得た。学んだ内容をそのまま模倣するのではなく、台湾の地域特性や社会環境に合わせて応用する視点が重要だと感じている。今回得た知識と視点を今後の行動につなげ、台湾の防災力と持続可能な発展に貢献できるよう、引き続き取り組んでいきたい。

5. 受け入れ側 対応（抜粋）

◆公益財団法人日本台湾交流協会東京本部 表敬訪問
理事長・総務部長と座談会

◆企業訪問 NTT DATA

主な質問内容：

- ・ビッグデータとクラウドコンピューティングを統合し、より精緻な「予測」と「早期警戒」を実現するための取り組みについて伺いたい。また、通信網が遮断された際、被災地との連絡を迅速に回復させるための技術的な対策はあるか。

- ・環境・エネルギーマネジメントシステムの推進において、燃料電池などの再生可能エネルギー設備の運用寿命を最適化するため、データ分析をどのように統合・活用されているのでしょうか。

◆東大防災情報研究センター

主な質問内容

- ・学術的な研究成果を、政府が実際に採用する防災意思決定ツールへと転換する際、最も大きな技術的・制度的ハードルは何だとお考えですか？

◆防災科学技術研究所

主な質問内容

- ・都心に近い富士山が噴火したり、地震によって火災や化学物質の漏洩が重なる「複合災害」が起きたりした場合、どのような対策が取られるのでしょうか。特に、センサー技術を使ったリアルタイムの早期警戒でどのように二次被害を防ぐのかという点と、市民の避難先確保や、その後の生活を支える定住支援の具体的な計画について教えてください

◆AIST 地質調査総合センター

主な質問内容

- ・台湾と日本に共通する地熱開発の課題として、高温かつ化学的に厳しい地下環境への対応が挙げられると思います。

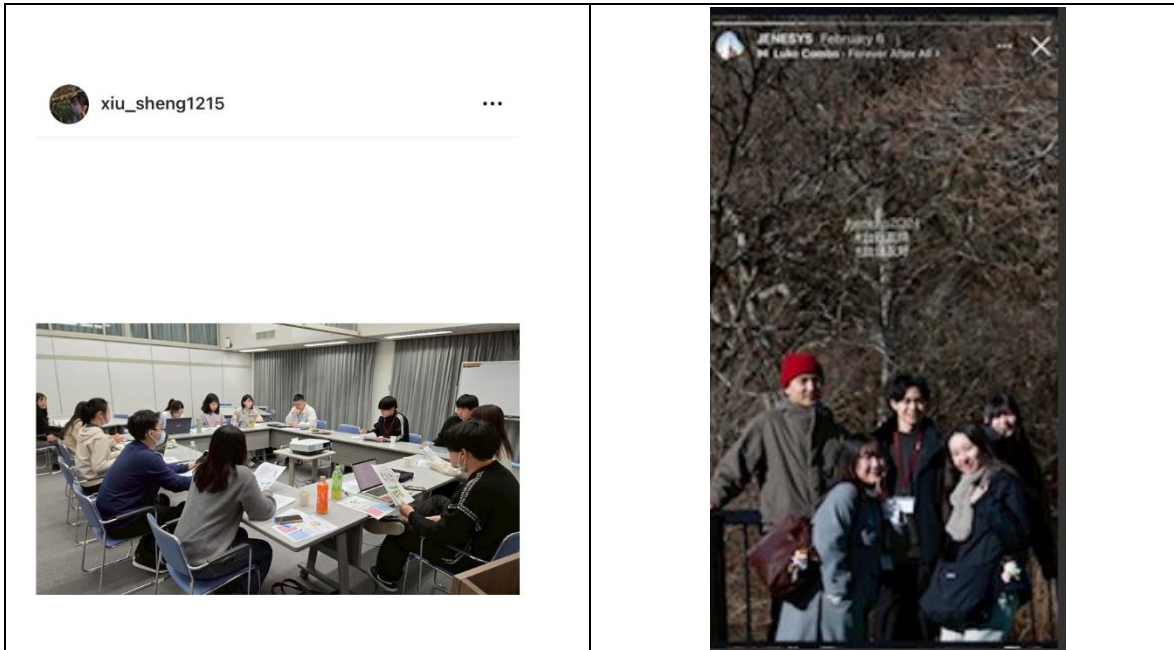
AIST としては、地質条件の理解に加え、材料や設備に関する研究部門との連携を通じて、こうした課題にどのように対応していますか。

◆日本気象協会

主な質問内容

- ・異常気象に立ち向かうために、貴協会は社会の防災レジリエンスをどのように向上させていますか。
- ・日本における再生可能エネルギー開発（水力、風力、流体エネルギー等）について、気象・地形・気候変動の観点から、特に日本が潜在能力を有するとお考え の分野や、今後重要になる評価手法は何でしょうか。

6. 参加者の対外発信



7. 報告会でのアクション・プラン発表（抜粋）

- ① 今回の視察で学んだこととご自身の研究をあわせて、水素エネルギー循環計画を例に挙げて、人々の省エネルギーに対する考え方を枠にはめずに、一般的な太陽光発電や風力発電といったグリーンエネルギー以外にも、多くの解決策を検討していく。
- ② 視察や日台合宿を通して、長期的に「情報伝達と誤情報の是正」「制度改革と政策転換」「災害後の検証と改善」などを SNS で発信、既存の制度とやり方を変え、実務のニーズと結合させる活動をしていく。
- ③ 起源や方法を定めずに今回の活動で得た経験を、より多くの人たちと共有したいと思っています。単なる体験談ではなく、この活動を通して私が観察し、学んだことを伝えるためです。
- ④ 現在は主に生活面において、日台それぞれの節エネや環境保護の取り組みを比較しながら、自分なりにできることを実行し始めています。たとえば、台湾では公共交通を活用することでエネルギー削減につながるだけでなく、関連する補助金や優遇措置を受けられるため、今後はより積極的に利用するつもりです。また、家庭ではゴミの量を減らすために、通常のティッシュペーパーを水に溶けるタイプのものへ切り替えるなど、生活の中で実践できる工夫も取り入れています

実施団体：株式会社 JTB